

2013年度 人権教育研究所・人権委員会活動報告

戸 江 茂 博

DOE Shigehiro

人権教育研究所・人権教育委員会の構成

2005年度に人権教育研究所が発足して以来、各学科から選出された5名の人権教育委員は、同時に人権教育研究所の構成員となっています。人権教育委員会は委員長と各学科の人権教育委員に加え、事務職員3名の計9名で構成されています。事務局は企画・広報室に設置され、人権教育委員会の運営やニューズレターの発行、人権教育研修会の企画・実施などを担当しています。

以下、2013年度の活動をご報告します。

1) 人権教育委員会報告

例会は原則として毎月第3金曜日の12:15~12:45です。

委員会の構成は戸江(委員長)、笹川(総文)、勝木(児教)、伊東(心理)、横山(福祉)、池川(Jr.)、池田(教務)、高橋(会計)、原田(学生)。

人権教育委員会の議題と報告事項は次の通りです。

< 4月19日 >

- ・「キャンパス・ハラスメント等相談窓口対応のしおり」について
- ・今年度第1回学内研修会について
- ・人権ニューズレターの発行について
- ・「人権尊重・ハラスメント防止のために」についての報告

< 5月17日 >

- ・学内研修会について
- ・人権ニューズレターの発行について

< 6月21日 >

- ・学内研修会について
- ・学外研修会について
- ・人権ニューズレター31号の発行についての報告

< 7月19日 >

- ・人権作文コンクールについて
- ・兵庫県人権啓発協会賛助会への入会について
- ・学外研修会について

< 10月18日 >

- ・人権作文コンクールについて
- ・学内研修会について
- ・学外研修会についての報告(勝木教員)

< 11月15日 >

- ・人権作文コンクールについて
- ・学内研修会について

< 12月20日 >

- ・学内研修会について
- ・次年度予算について
- ・人権作文コンクールの結果についての報告

< 1月17日 >

- ・学内研修会について
- ・「人権尊重・ハラスメント防止のために」について
- ・人権作文コンクール表彰式についての報告
- ・人権ニューズレター32号発行についての報告

< 2月21日 >

- ・「人権尊重・ハラスメント防止のために」について
- ・学内研修会についての報告

2) 人権ニューズレター発行について(敬称略)

第31号(2013年6月17日)

- ・グローバル社会における国際人権意識の啓発活動の重要性(池川 哲史)
- ・「スポーツと人権」トピックス(勝木 洋子)

第32号(2014年1月31日)

2013年度人権作文コンクール入選作品のご紹介

・最優秀作品

「いじめ予防を考える～個性が生きる学級～」
児童教育学科 山崎 侑希

・優秀作品

「人間関係こそ最高の贅沢」
児童教育学科 井本さやか

「自分を伝える」

児童教育学科 鶴井彩央里

・入選作品

「いじめ問題に向き合う」

心理学科 中山 愛美

「あなたは、今、幸せですか？」

児童教育学科 大澤 優希

「"いじめ"に関わる子どもの心境」

児童教育学科 鶴賀 朱音

3) 学外人権研修会

「キャンパス・セクシャル・ハラスメント全国ネットワーク第19回全国集会 in 福岡」

日 程：2013年8月31日(土)、9月1日(日)

会 場：福岡県男女共同参画センター・あすばる

出席者：勝木 洋子教員

4) 学内人権研修会

2014年2月12日(水)

講 師：北口 末広氏

(近畿大学人権問題研究所教授、本学人権教育研究所客員研究員)

研修目的：教職員の人権意識の啓発と向上を目的として研修会を実施する。

テ ー マ：「ハラスメントを起こさないために」

参加者数：103名

5) 人権作文コンクール

人権作文の募集と優秀作品の選考を行いました。ゼミを通して多くの学生からの投稿を求めました。

①募集内容

目 的：人権教育推進の一環として人権作文の募集を行い、学生一人ひとりの人権への意識を高揚するとともに、人権問題への主体的取り組みを促す。

募集対象：1～4年の全学年

作文テーマ：「いのちの大切さーいじめのない社会にするためにー」

原稿書式：40字×30行 1,200字程度(本文)

A4判横書き

原稿提出先：学生担当カウンター前のボックス

応募期限：2013年11月25日(月)

賞 品：最優秀賞 1名 10,000円(図書券)

優 秀 賞 2名 5,000円(同上)

佳 作 3名 2,000円(同上)

選考方法・委員：人権教育委員長(戸江)人権教育委員2名(勝木・横山)学生2名(親学会：辻・原口)計5名

各委員は独自に匿名の原稿を審査、上位3名を選抜、被選抜数上位6名を入選者とし、その後5名で合議の上、賞を最終決定。入選作文は委員会でも内容をチェックする。

入選作品の発表：人権ニューズレターで紹介

②応募数と入選結果

応募総数：40編

最優秀賞 山崎 侑希(児童教育学科3年)

優 秀 賞 井本さやか(児童教育学科3年)

鶴井彩央里(児童教育学科2年)

入 選 中山 愛美(心理学科3年)

大澤 優希(児童教育学科1年)

鶴賀 朱音(児童教育学科1年)

③表彰式

2014年1月10日(金)12時15分より、学長応接室にて人権作文コンクールの表彰式が執り行われました。上記6名の受賞者及び学生選考委員2名、人権委員長が列席し、学長より賞状と賞品が授与されました。また学生選考委員2名に対して労をねぎらい学長より感謝の辞が述べられました。

6) 次年度の課題

本学の諸研究所が平成26年度に新たに設置される国際教育研究センターに統合されることに伴い、人権教育研究所は廃止されることになりましたが、人権教育委員会は存続します。規模も役割も変わるところなく、委員会としての活動を行うことになりました。

人権意識の啓発を通して共同的に歩む社会を作ろうというのが、私たち人権教育委員会の永年の課題ですが、これをいっそう進めていくとともに、改めて「共に生きる」ということを見つめ直していきたいと思います。なお、「共」と「友」は同根の言葉だそうです。